Management Club Report

Jan.2017/Vol.169

Monthly Opinion 《受ける、受けとめる》

MC レポートをご愛読の皆様、明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願い申し上げます。

早いもので本レポートも169号を数えるまでになりました。今年の12月には180号となり、記念すべき200号は2019年8月の発行となることが予定されております。そしてこの2019年は弊社創立20年に当りますので、200号は皆様方からお寄せ頂くたくさんの原稿で埋め尽くし、記念誌として書棚を飾ることができるような体裁と内容にしたいと考えています。それぞれの地域と時代を映し出す『〇〇歯科医院四半世紀興隆史』『△△歯科医院を支えた逸材のスタッフたち』『無手勝流歯科医院経営実践論』などなど個性溢れるご寄稿に期待を致しております。ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

さて、1月12日配信のメールマガジンでお伝えいたしましたとおり、今年のテーマは「受ける、受けとめる」と致しました。これまでも『今年のテーマ』を決め、サマーミーティングやスタッフリーダー・ミーティングでの共通テーマとしたり、日々の活動や MC レポートの内容に盛り込んだりして参りましたが、その始まりは東日本大震災の翌年、2012年の『希望をつくる歯科医療』でした。翌2013年は『ことばの重み』、2014年『リーダーシップ』、2015年は『生かす』、2016年は『輝かせ、そして輝く!』と続けて参りました。

『希望』も『ことばの重み』も自分に向けられた状況やことばをどう受け止めるのかによって希望も生まれ、行動も変わるということを学びました。また人を『生かす』ことや『輝かす』ことは『リーダーシップ』の目的であり成果でありますが、そのリーダーシップを正しく『受けとめる』ことのない一方通行的なチームワークであれば成果は覚束ないものとなることを知りました。

何事におきましても、モノを、考えを、提案を、思いを、そして叱責や苦言をどのように『受ける』か、あるいは様々な出来事をどのように『受けとめる』のか、受け方や受けとめ方は極めて重要な役割を演じます。受け方ひとつで当事者や関係者がハッピーにもなれば、また関係が後退することもあるならば、それはまさしくリーダーシップそのものであると言えます。とりわけ医療人としては、患者の訴えをまず真摯に聴くことからすべてが始まることを思えば、訴えを『受ける』ことはもとより、どのような態度表情で患者の気持ちを『受けとめる』のか、その重大性は計り知れません。

提供の仕方も重要ではありますが、今年は、受身の立場からものごとを好転させたり、価値を生み出したりすることについて、掘り下げて考えて行きたいと思います。